

<先週のつづき>

村上 定幸

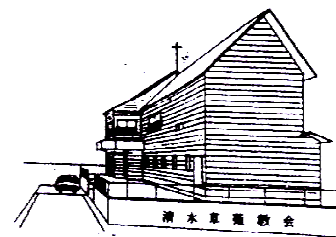
【聖書箇所】先週開かれた聖書箇所は、ルカ福音書16:1~13です。“あなたがたは、神と富とに仕えることはできない(6:13)”という聖句が有名です。確かにそうなのですが、それではいったいどのように教えられたのか、もう一度みてみたいと思います。週報の面では足りないようです。前後しますが、先週は特に9節以降に書かれていることを味わってみました。

【不正にまみれた富で友達を作りなさい】これは一体どんな意味なのか、質問を受けました。問題は、弟子であるということと、この世に流通している貨幣という、避けて通れないものが、何か不安な感じを私たちに与えているからかもしれません。この喩話が、聖書の中でも“露骨な”感じがするかもしれません。このような賢さを教えるのは聖書らしくないというわけです。円というお金など、これが私たちを取り巻く金銭の単位です。教会だけが特別な特別のマナーに生きているわけではありません。そこで主はこう教えられます。“この世のお金を清い友を作るために(清い友のために)用いなさい”と。反対に私たちは“聖別されたお金を友をつくらないために用いることがとても上手なのです”。礼拝のたびに“清めて御用のために用いて下さい”と祈るのは、こうならない為です。神様が直接天から、腕を延べて、お金を用いることはしません。中身は“どうか正しく用いることができますように、聖霊の自由において導いて下さい”ということです。使い道を決めるのは会議です。友をつくるためにも用いることができますし、友を作らないために用いることもできるのです。

【弟子たちは聞きました】おそらくは、8節くらいまでがイエス様が実際に語られたことで、それ以降(その一部・後半は先週週報に書きましたが)のことは、“これじゃ悪事が称賛されているように読まれてしまう”と思った、ルカあるいは最初の頃の教会の説教者が、“そうではないのだ”と付け加えているようにみえます。主の喩話は、このような解説が、普通はないからです。“喩の意味はこうである”と、喩を解説される時はあります(マタイ13章の“蒔かれた種”など)。もう一つ大切なことがあります。弟子たちに語られているということです。弟子たちは、一度は主の弟子として決意を固めた人々です。そしてイエスはこれらの弟子に聖霊の力を与え、教会を建てあげられました。主は、金銭に類するものについては、なにをも残されませんでした。弟子たちを残されました。弟子達が力をふるべき、教会建設という責任を残されました。これがイエス様の財産です。草薙教会も主の財産です。ところが聖書が語るように、弟子たちは、やがて主のもとを離れる経験をします。しかし主は、ユダの振る舞いをはじめ、すべてをご存知の上で、なお且つ彼らを信用し、今の教会に至るまで委ねられたのです。主の思いが教会を覆いますように祈りましょう。

週報

2011年 10月 16日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

振替口座 00890-6-214042